town topics

まちのわだい

木材工芸館がリニューアルオープン
愛称は『キノス』に決定

つべつ木材工芸館の改修工事が完了し、4月20日、リニューアルオープン式が行われました。

主催者挨拶、祝辞などに続いて公募により選ばれた愛称の発表と表彰式が行われ、新しい木材工芸館の愛称は『キノス』と決まりました。考案者は津別小学校4年生の土田陸翔（りくと）くんで、木材工芸館の周りにはたくさんの樹木があることから、鳥の巣のようにみんなが集まる場所になるように、との願いを込めて名付けました。

来賓・関係者による経木を使ったテープカットが終わると、来館した子どもたちが、さっそく大型木製遊具・森のアドベンチャーなどで遊んでいました。

◀森のアドベンチャーで遊ぶ子どもたち
▼テープカットの様子。向って左から２人目が愛称考案者の土田くん

▲つべつ木材工芸館外観

道路クリーン作戦を実施
町道沿いで390kgのごみを回収

5月11日、ごみゼロ運動の日（5月30日）を前に、「道路クリーン作戦」（主催　津別町、津別町環境衛生推進協議会）が実施されました。

参加者は、朝7時30分に農業者トレーニングセンター前に集合。バスで移動し、数人ずつのグループに分かれて、ふれあい公園パークゴルフ場から美幌町との境界までの町道3号線沿いで、道路わきのごみやポイ捨てされた空き缶、ペットボトルなどを拾い集めました。

今回、多くの参加者のご協力により回収されたゴミの量は、390kgにもなりました。今後もごみゼロを目指し、ご協力をお願いします。

春の火災予防運動期間に合わせ町民に火災予防を呼びかけ
市街地で防火パレードを実施

春の火災予防運動期間中の4月20日、津別消防署及び津別消防団による防火パレードが行われました。

津別消防署前で開会式が行われ、女性消防団員が掲げるプラカードを先頭に、自治会連合会や各団体、ハッピ姿の認定こども園の園児と職員、保護者などがパレードに出発。消防署員・団員並びに車両隊と共に市街地を行進しながら、町民に火災予防を呼びかけました。

小・中学校のグラウンドをきれいに
（株）NIPPOが整備ボランティア

5月9日、株式会社NIPPO北網出張所による、津別小学校及び津別中学校の無償グラウンド整備が行われました。

同社のボランティア事業の一環として平成22年度から毎年実施されており、今年で10回目の整備作業となります。

トラクター、ロードローラーを使った整地と、手作業による草取りでグラウンドは見違えるようにきれいになり、児童・生徒たちは安全に体育授業などに取り組むことができそうです。

カラマツの苗木400本を植える
共和町有林で町民植樹祭を開催

令和元年度町民植樹祭（主催　津別町、網走南部森林管理署）が、5月12日、共和の町有林で開催されました。

開町100年を迎える津別町の大切な財産である森林を守り育て、さらに緑化活動や環境意識の高揚を図ることを目的に、毎年行われている催しです。

小雨のため役場庁舎内で開会式が行われ、120人の参加者を前に主催者らが挨拶。開会式を終えるとバスなどで共和の植樹会場に移動し、オホーツク東部森林室職員の説明を受けてから、カラマツの苗木400本を植えました。最後に記念標柱を建立し、苗木の健やかな成長を願いました。

◀家族連れの参加者
▼植樹を終えて記念標柱の前で記念撮影

ネイチャーセンターがオープン
津別町民の森自然公園来訪の拠点に

上里に津別町民の森自然公園（愛称・ノンノの森）ネイチャーセンターが完成し、4月26日、オープニングセレモニーが行われました。

ランプの宿・森つべつの向かい側、ノンノの森入り口に新たに建てられたこの施設は、森林セラピー等の自然体験を提供するツアーデスクや観光インフォメーション機能、カフェ・売店を備え、公園来訪の拠点として期待されています。

セレモニーでは、テープカットに続いてクリンソウまつりなどで津別町にゆかりの深い音楽ユニット・ホラネロが津別への移住を発表し、ミニコンサートで船出を祝いました。

▲ネイチャーセンター外観

▲ホラネロのミニコンサート

地域おこし協力隊の思いつき日記 その67

地域おこし協力隊隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

今後もよろしくお願いいたします

山田佳世

愛知県出身。6月中旬、協力隊任期満了。

月日が流れるのは早く、協力隊の任期もまもなく終わりを迎えようとしています。今こうして、津別で元気に生活できているのは、いつも優しく見守って下さる町内の皆様のおかげだと感謝しています。

任期中は、「ふるさと納税」業務に携わらせていただきました。返礼品提供事業者様の下を訪れ、様々な話を聞かせていただき、実際に見て、手に触れ、体験させていただく機会を多くいただき、大変貴重な経験・財産となりました。

どの方々からも伝わってくる、「モノ」への愛情・わが子のように愛しむ想う気持ちには、強く心打たれるものがあり、多くの人に知ってもらいたい・伝えたいという気持ちが私自身の中でも強くなりました。

そして、その生産者の方々の想いを全国に伝えるという業務は、とてもやりがいがあり、この3年間で多くの津別ファンが生まれ、寄附のリピーターさんが増加したことは、この仕事を通じての喜びの一つです。

3年間、本当に多くの方に助けていただき、支えていただきました。この場をお借りして心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。この3年間の生活の中で「津別町に来て、本当に良かった」と心から思うことができる出来事や出会いがたくさんあります。

これからも津別町で生活していきますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。